

2023（令和5）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492200371	事業の開始年月日	平成23年4月1日
		指定年月日	平成23年4月1日
法人名	社会福祉法人 県央福祉会		
事業所名	ラ・プラージュ湘南		
所在地	(251-0037) 神奈川県藤沢市鵠沼海岸6-7-14		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和5年10月10日	評価結果 市町村受理日	令和6年3月1日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご利用者様の生活支援に重きを置き、認知症になっても安心して過ごせる場所、環境、空間を提供できるように努めています。
そのために常に学ぶ姿勢を大事にして専門性の向上を目指しています。
看取りに関してもご家族ご本人様の意思を尊重し、できる範囲で行っています。
食事は職員が手作りし、季節に応じた食材を多く取り入れています。ご利用者様にも可能な限り関わっていただいています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和5年11月21日	評価機関 評価決定日	令和6年2月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所はJR東海道線「藤沢」駅よりバスにて約10分、バス停より徒歩3分程の閑静な住宅地に立地し近くには公園や神社、八部野球場があり散歩に適した環境となっています。

<優れている点>

事業所独自の理念は「一人一人の主体性があるその人らしい生活」の実現を目指し、職員は、常に理念を確認し合い入居者に寄り添った介護の実践に努めています。医療面では入居者が馴染みの医師により継続的に安心して医療を受診できるように、入居者に応じて4ヶ所のクリニックの往診医が医療の受診や健康相談ができる体制にあります。重度化した場合には、入居者・家族の意向を確認しながら最後まで尊厳ある看取り介護を行う体制が確立し、終末期ケアの研修も実施しています。身体拘束廃止と虐待防止に力を入れチェック式自己点検シートを使用し自己の介護を振り返りながら日頃の介護・介助に当たっています。

<工夫点>

職員が手作りの美味しい食事を提供しています。食事の献立は入居者の好みを取り入れ、食材は近くの生協から調達しています。毎週火曜日にはサンドイッチなどのパン食の日も設け「食」を大事にしています。また、「ラ・プラージュ新聞」を作成し、入居者の日常の様子や、インフルエンザ予防接種などの事業所の来月の予定や連絡事項も家族に知らせています。近くの畑で芋掘りした様子など、利用者のホームでの生活面の写真載せる事で、家族の安心につながっています。

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	ラ・プラージュ湘南
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人の理念のほかに事業所独自の理念を作っています。目につくところに掲示し、常に意識できるようにしています。	事業所独自の理念は「一人一人の主体性があるその人らしい生活」の実現を目指すとし、1階・2階の職員が目につくリビングの入口ドアに掲示してあります。職員は日頃の介護・介助の中で理解を深め実践につなげています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会には加入し、地域の一員ということをお忘れなくしています。まだコロナも収束していないので積極的な交流はありませんが、近所の方や散歩の際のあいさつは習慣化しています。	町内会に加入し、正月には近くの鶴沼伏見稲荷神社へ初詣に出掛けています。コロナ禍前はボランティアが歌やフラダンス、傾聴ボランティアに来訪しています。夏の高校野球大会時には近くの八部野球場からにぎやかな応援合戦が聞こえる環境となっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症があっても地域で生活できることを知っていただくために、散歩や買い物には日常的に行うようにしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に一度、実施しています。地区社協、民生委員、地区代表、入居者様ご家族、入居者、介護保険課等にお声がけさせ参加して頂いています。2か月間の報告をアドバイスいただいています。	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催しています。会議では事業所のサービス提供状況やレクリエーションなどの活動実施状況を報告をしています。コロナ禍のため、書面報告していましたが、令和5年4月より対面会議を再開しています。	運営推進会議には入居者・家族代表にも開催通知を発送し、会議の参加を募り、事業所の現状を開示し、活力ある会議となるように工夫することが期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	藤沢市グループホーム連絡会に参加し、市の担当者とともに情報共有を行っています。空き室があるときなど、紹介してもらえよう協力してもらっています。	藤沢市の高齢支援課と運営面の相談や入居者の状況報告を行っています。介護保険の認定更新手続きや立ち合いは家族に代わって行うこともあります。藤沢市グループホーム連絡会に加入し感染症の発生原因などの講座案内の情報を得ています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会が中心となり、日常のケアで身体拘束に当たるケアをしていないか定期的に振り返っています。フロアごとのミーティングでは虐待になりそうな事例をスタッフ間で話し合ったりしています。	法人作成の身体拘束等の適正化のための指針があります。身体拘束委員会があり身体拘束をしないケアの実現や誇りとやりがいを持ってケアに取り組むなどを話し合っています。職員は自己点検ノートを使い振り返りを行い、正しい理解に努めています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止委員会が中心となり、日々のケアを振り返る機会を作っています。また、毎月チェックシートを実施するようにし、自身のケアの振り返りや意識付けを行っています。	虐待防止委員会を設置しています。「お待ちください」などの言葉を極力使わないようにしています。「ダメ」など否定に取れる言葉にならないような声掛けを職員で話し合っています。入居者には敬語を使い、命令調にならないように言葉遣いに留意しています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	後見人を立てている入居者の方はいらっしゃいますが、どのようなものなのか学ぶ機会は持っていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、退去時、改定の際には利用者やご家族の不安や疑問を尋ね、それに対して十分な説明を行い、理解・納得を得ています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	月に1回新聞を発行し、事業所の様子を伝えるとともに、担当職員が一筆箋で入居者様のご様子を報告しています。また、面会時には積極的にコミュニケーションを図っています。中々来られない方には、メール等でコミュニケーションを図るようにしています。	家族の来訪時に意見や要望を聞いて運営面に反映しています。コロナ禍による感染予防のため面会を中止していたため、家族から面会を早く再開してほしいと要望があり、感染状況を勘案しながら、法人の考えも参考にして対応しています。現在は緩和しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の各フロアのミーティングやケースカンファレンスの際に意見や提案を聞く機会を設けています。また、管理者も現場に入るようにし、コミュニケーションを取りやすいようにしています。	管理者は月1回のフロア会議や朝の申し送り時に意見や要望を聞いています。職員から2階のベランダが経年劣化しているので修理してほしいとの要望があり、建物所有者と相談しています。法人は年1回職員の意向調査・満足度調査を実施しています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	全職員に年に1回意向調査・満足度調査、年に2回ストレスチェックが行われ各職員の心身の状況を把握に努めています。	管理者は職員が働きやすい環境づくりに努め、年2回面談をしています。管理者は1階と2階の職員が互いに馴染みやすくなるように配慮しています。職員は健康診断を年1回実施し、夜勤者は年2回心身の健康維持を保つために実施しています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人職員への引継ぎなどは常勤が伝えることに拘らず、経験値やスキルの高い職員に積極的に行ってもらっています。また、研修の情報は全職員に提供しています。	管理者は職員の常勤・非常勤を問わず、社内研修を受講できるように支援しています。外部研修には希望があれば法人が費用負担を行っています。新人研修には、ベテラン職員がOJTにて指導に当たり、人材育成に取り組んでいます。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内では月に一度管理者が集まる会議を実施しています。常勤ですが、法人内のグループホーム職員との交流会を設け、意見交換や情報収集の場を作っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス開始前にご家族および関連機関等から利用者様のこれまでのご様子・嗜好・既往歴等の聞き取りを行い、スタッフ間で情報共有し、介護計画を作成しています。また、利用者様のご入居後は積極的に声かけを行い、利用者様のご意向や潜在的な不安等を確認し、信頼構築につなげられるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族とのコミュニケーションの中で入居者様の普段の生活の様子を多面的に確認することにより、ご家族等が困っていることや不安なこと、要望などを汲み取り、信頼構築出来るように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居者様のこれまでの病状の経緯や、ご家族の様子・ご意向等の聞き取りを行い、必要とされる支援の見極めやそれらの優先順位を設定します。そして、ご家族の同意を得た上で、当施設で出来ること、関連機関への支援要請を含め、広い視野でのサービス提供を心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者およびスタッフは、「共にホームで生活を送る一員同士」でもあり、入居者に接するにあたっては生活歴や性格などに配慮し、ご本人の人権を大切にしたり関わりを持ち、お互いに良好な関係を築けるように努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居者のご家族も入居者を支える一員であるという考えのもと、ご家族・スタッフとのお互いに必要な情報の共有をはかり、お互いに協力し合いご入居者様をお支え出来る関係性を構築出来るように努めています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者様のこれまでの生活様式等をご家族・関係者の方々より確認し、これまでの生活環境に出来るだけ近づけるように努めています。また、ご家族やお知り合いの方による施設への訪問・面会機会を作って頂けるよう、施設より適宜情報を発信しています。	コロナ禍前は家族と一緒に馴染みのファミリーレストランに食事に出掛けていましたが、感染症を懸念し、今はまだ再開には至っておりません。家族との通話により不安な気持ちが落ち着く人には電話の通信支援も行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	共有スペース等において入居者様同士での過度の干渉等が見受けられた場合は、適切なタイミングでスタッフがお声かけや簡単な家事を協同で行って頂くなどして、適宜介入することにより、入居者様同士の良好な関係作り・維持が出来るように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	必要に応じてサービス終了後も利用者であった方のご様子やご家族の状況などを伺い、過度な干渉にならない範囲での相談・支援を行えるように良好な関係の継続・維持に努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者・ご家族・その他関係者の方々のご意向を確認し、スタッフ間で共有・分析を行い、ご希望に沿った支援を行うように努めています。また、ご意向の把握が困難な方でも、ご本人の気持ちを汲み取り、その方が何を求めているのか職員間で共有し、ケアにつなげています。	職員は日常の会話や表情の中から、意向や希望を汲み取るように努めています。意向を自分から伝えにくい人には夜間帯など、入居者と一対一になれる時間利用し、昔話や不安な気持ちを傾聴しています。外気浴などの気分転換を図った時なども傾聴時間と心得て、若い頃の思い出話をしてもらえるような会話に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご入居前よりご本人やご家族、関係機関から生活歴やその方の人となり等の聞き取りを行い、ご入居されてからも環境の変化、対応の変化に混乱することのないように心がけております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者様一人ひとりについては、日々の記録や申し送りを中心に、また定期的に行うフロア会議等を通じてスタッフ間での情報共有・現状把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画を作成するにあたっては、ご本人やご家族、スタッフ、関連機関等の必要な関係者と話し合いをし、定期的にモニタリングを入れることにより、現状に即した介護計画を作成出来るようにしています。	入居者の様子や気づいたことを毎日の個別介護記録や、申し送りノートに記録して情報共有しています。それらを基に、毎日の申し送りや会議で話し合い、医療関係者の助言を得て計画を立て、本人や家族に意見をもらった上で介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録については、入居者個々に24時間スケールでの個別記録をとり、日々の様子やケアの実践・結果・気づきや工夫等を確認出来るようにして、職員間で情報共有したり、介護計画の見直しに活かせるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居者やそのご家族から出た希望については、可能な限りご希望に沿えるよう、入居者およびご家族と相談をしながらサービスの検討・対応をしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナウイルス等の流行具合や感染症対策に配慮をしつつ、公園散歩やコンビニ・ドラッグストア等への外出、地域の社会福祉協議会が中心となって毎年実施している芋堀りに参加したり、地域とのつながりを大事にするように意識をしています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居者様の体調不良時は、提携している訪問看護ステーションや主治医に指示を仰ぎ、対応をしています。また、24時間体制で往診して頂けるようにしています。	入居者や家族が希望する4医療機関と提携しています。訪問看護師が各フロア別々の曜日に来訪することで、診療曜日ではない利用者の急な体調変化にも対応することができています。問い合わせ票を使用し医療情報の共有を図ることで安心な医療体制を整備しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護師の定期来所時には、日々の中での気づきや情報を伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院の際に安心して治療が出来る、可能な限り早期に退院できるよう、日頃より主治医や訪問看護ステーション等と積極的に関係作りおよび情報共有に努めています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化・終末期と思われる入居者様には早期にご本人やご家族の意向を確認し、担当主治医や訪問看護師を交えて支援に取り組んでいます。	契約時にも重度化や看取りの支援について家族に説明していますが、終末時期に再度家族の意思を確認しています。方針決定後は管理者が統一した対応を説明し支援する体制を整えています。毎年看取りの研修を行い知識や理解を深めています。看取り後は、会議で振り返りを行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時対応マニュアルを作成しており、これに基づき緊急時の対応を行うよう周知・徹底をしています。また、不定期ですが外部の研修等を通じて、実践力を培えるようにしています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	火災、地震、水害等の災害を想定した法人内の訓練や、事業所内での訓練を年に数回程度実施をしています。	年2回、法人内事業所一斉の合同防災訓練を実施しています。安否確認システムを導入し「入居者と職員に怪我している人はいないか、職員は出社できますか」などの確認ができるようにしています。「防災対策備品等リスト」を作成して備蓄品の用意・管理をしています。	法人合同防災訓練以外にも事業所独自で消防署の立ち合いを依頼して事業所内を見てもらい助言を得、消火器の使用訓練なども実施されることを期待します。また、地域の人との協力体制を築いていくことも期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者一人ひとりのプライバシーを確保し、相手の気持ちを大事にした言葉かけや対応をするように心がけている。	利用者との日々の会話の中で否定しない事や、「ありがとう」の感謝の言葉を伝えていきます。「〇〇しますか」などの利用者の意思を確認することも大切にしています。支援の中で不適切な対応がないように会議の場やチェックシートを用いて確認し、職員の意識を喚起しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	各入居者様が発する言葉や表情、動作等の様々な角度より、ご本人様の思いや希望を汲み取り、自己決定につなげられるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援しています。	入居者の生活歴に着目し、傾聴にも重きを置き、お一人お一人の思いに沿ったその人らしい暮らしができるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	日々の生活の中でご自身で洋服を自由にコーディネートしたり、鏡を見てお化粧をしたりと、おしゃれを楽しんでいただけるよう支援に努めています。また定期的な訪問美容にてご希望に沿ったカットやカラー等のおしゃれも楽しんで頂いています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	長年の主婦としての経験を活かして頂けるよう、入居者と職員と一緒に野菜の皮むきやカット、料理の味見などに参加していただいています。下膳後の食器洗い、食器ふきなど個人個人にあった作業も手伝って頂いています。	入居者の希望を取り入れたメニューを職員が手作りし提供しています。下ごしらえや盛り付け、後片付けをする人もいます。事業所の駐車場や近隣の公園でおやつやハンバーガーなどを食べる日も設けています。利用者が掘ったさつまいもでスイートポテト作ったりと、色々な催しを考え、楽しい食事となるように工夫しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	3度の食事では栄養バランスを考え個々にあった必要量を摂って頂くよう心がけて提供しています。水分に関しては、声かけや説明をし、個々の嗜好飲料や体重面など考慮し提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアの際にここに合わせた歯磨き粉や歯間ブラシ、スポンジなどを使用し、清潔保持を心がけています。また、必要な方には歯科往診を受け、義歯の安定感、口腔内の状態を査収してもらっています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	入居者各々時間ごとに声掛けしトイレを案内しています。自立の方に関しては、不快な思いをさせないように、使用後に排泄確認をしています。介助の際はプライバシーに配慮し、ご本人に聞こえる程度での声掛けを心がけています。	排泄パターンチェック表や個々の仕草などからパターンを把握し、声かけをしてトイレ誘導しています。誘導する際は傍に寄って、そっと「おトイレいかれますか」「いってみましょうか」とプライバシーに配慮した声かけを心がけています。トイレでの排泄を大切に考えて支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	記録により、入居者各々の排便状況を把握しその程度により医師の指示のもと便秘薬を与薬しています。与薬となる前に水分量を多くするなどして排便を促しています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴日を記録し、計画的に入浴できるように努めています。入居者様が気持ちよく入浴できるよう、好みの温度、室内の空調等も気遣っています。入浴毎に浴槽、床の清掃をし、衛生面にも留意しています。	機械浴と脱衣所の床暖房の設備があり、介護度が高い人や、寒い時期の対応も整えています。入浴を好まない人には、声かけの時間や職員を変えています。浴室まで行っても、その後嫌がる場合の時も無理強いはいしないよう臨機応変に考えて対応しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	朝起きて夜寝るといふ、基本的な生活サイクルをもとに入居者各々の要望、体力を考慮しながら昼食後に少し休んで頂いたり、対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人一人の体調や日々の様子を観察し、定期的にその薬が合っているのかを医師、薬剤師と連携し確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人一人の楽しみ方、できること、やりたいこと、やりたくないことを日々、会話の中で理解し、無理のない範囲で支援し活躍の場の提供に努めています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	一人一人のご希望に沿うように努めています。ご気分や表情などで希望されずとも促し、気分や環境を変えることで気分転換の機会を提供しています。	近隣の公園や川沿いへ散歩したり、駐車場外気浴をしています。車いす利用者も車に乗り外出しています。また、おやつや化粧品を店に買いに行ったり、花見や初詣、植物園に出かけるなど、戸外の景色や空気に触れています。コロナ5類移行により、今後外出の機会を増やしていく予定としています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を持っているだけで安心される方には少額お持ちいただくなど、入居者様のお気持ちを大事に支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙や電話のやり取りは、ご本人の負担にならない程度にお声がけしながら調整しています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内、フロア、リビングについては、毎日モップ掛けや掃除機を使用し清掃しています。台所・トイレについても毎日清掃を実施しています。空気の入替え、カーテンを開け光が入るようにするなど、環境面にも意識的に配慮しています。	薬品や人体に有害な物質を使わない光触媒の除菌・脱臭装置を導入しています。日当たりがよいリビングの照明をリラックスできる快適な明るさに調節しています。季節を連想して入居者が書いた「やきいも」「もんぶらん」などの毛筆の書を飾るなど、季節を感じながら過ごしやすい環境を整えるように工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングの他、フロアにソファやテレビ置き、少人数やおひとりで過ごせるように工夫しています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	思い出の品や写真をお持ち頂いたり、レクで作成した作品等を飾るなど、ご本人が安心して過ごせるように配慮しています。	夜間に部屋の出入りする入居者の部屋のドアにクッション材を貼り開閉音が響かないように工夫しています。居室担当者が部屋の整頓や衣類の入替え、シーツの交換などを行い、居心地よく過ごせるように配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者様にわかりやすいように物品を配置したり、張り紙等も使用し、無理なく自立した生活ができる様工夫しています。		

事業所名	ラ・プラージュ湘南
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人の理念のほかに事業所独自の理念を作っています。目につくところに掲示し、常に意識できるようにしています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会には加入し、地域の一員ということをお忘れなくしています。まだコロナも収束していないので積極的な交流はありませんが、近所の方や散歩の際のあいさつは習慣化しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症があっても地域で生活できることを知っていただくために、散歩や買い物には日常的に行うようにしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に一度、実施しています。地区社協、民生委員、地区代表、入居者様ご家族、入居者、介護保険課等にお声がけさせ参加して頂いています。2か月間の報告をアドバイスをいただいています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	藤沢市グループホーム連絡会に参加し、市の担当者とともに情報共有を行っています。空き室があるときなど、紹介してもらえよう協力してもらっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会が中心となり、日常のケアで身体拘束に当たるケアをしていないか定期的に振り返っています。フロアごとのミーティングでは虐待になりそうな事例をスタッフ間で話し合ったりしています。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止委員会が中心となり、日々のケアを振り返る機会を作っています。また、毎月チェックシートを実施するようにし、自身のケアの振り返りや意識付けを行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	後見人を立てている入居者の方はいらっしゃいますが、どのようなものなのか学ぶ機会はありません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、退去時、改定の際には利用者やご家族の不安や疑問を尋ね、それに対して十分な説明を行い、理解・納得を得ています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	月に1回新聞を発行し、事業所の様子を伝えるとともに、担当職員が一筆箋で入居者様のご様子を報告しています。また、面会時には積極的にコミュニケーションを図っています。中々来られない方には、メール等でコミュニケーションを図るようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の各フロアのミーティングやケースカンファレンスの際に意見や提案を聞く機会を設けています。また、管理者も現場に入るようにし、コミュニケーションを取りやすいようにしています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	全職員に年に1回意向調査・満足度調査、年に2回ストレスチェックが行われ各職員の心身の状況を把握に努めています。		
13	10	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人職員への引継ぎなどは常勤が伝えることに拘らず、経験値やスキルの高い職員に積極的に行ってもらっています。また、研修の情報は全職員に提供しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	法人内では月に一度管理者が集まる会議を実施しています。 常勤ですが、法人内のグループホーム職員との交流会を設け、意見交換や情報収集の場を作っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス開始前にご家族および関連機関等から利用者様のこれまでのご様子・嗜好・既往歴等の聞き取りを行い、スタッフ間で情報共有し、介護計画を作成しています。また、利用者様のご入居後は積極的に声かけを行い、利用者様のご意向や潜在的な不安等を確認し、信頼構築につなげられるように努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族とのコミュニケーションの中で入居者様の普段の生活の様子を多面的に確認することにより、ご家族等が困っていることや不安なこと、要望などを汲み取り、信頼構築出来るように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居者様のこれまでの病状の経緯や、ご家族の様子・ご意向等の聞き取りを行い、必要とされる支援の見極めやそれらの優先順位を設定します。そして、ご家族の同意を得た上で、当施設で出来ること、関連機関への支援要請を含め、広い視野でのサービス提供を心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者およびスタッフは、「共にホームで生活を送る一員同士」でもあり、入居者に接するにあたっては生活歴や性格などに配慮し、ご本人の人権を大切にしたり関わりを持ち、お互いに良好な関係を築けるように努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居者のご家族も入居者を支える一員であるという考えのもと、ご家族・スタッフとの間でお互いに必要な情報の共有をはかり、お互いに協力し合いご入居者様をお支え出来る関係性を構築出来るように努めています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者様のこれまでの生活様式等をご家族・関係者の方々より確認し、これまでの生活環境に出来るだけ近づけるように努めています。また、ご家族やお知り合いの方による施設への訪問・面会機会を作って頂けるよう、施設より適宜情報を発信しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	共有スペース等において入居者様同士での過度の干渉等が見受けられた場合は、適切なタイミングでスタッフがお声かけや簡単な家事を協同で行って頂くなどして、適宜介入することにより、入居者様同士の良好な関係作り・維持が出来るように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	必要に応じてサービス終了後も利用者であった方のご様子やご家族の状況などを伺い、過度な干渉にならない範囲での相談・支援を行えるように良好な関係の継続・維持に努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者・ご家族・その他関係者の方々のご意向を確認し、スタッフ間で共有・分析を行い、ご希望に沿った支援を行うように努めています。また、ご意向の把握が困難な方でも、ご本人の気持ちを汲み取り、その方が何を求めているのか職員間で共有し、ケアにつなげています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご入居前よりご本人やご家族、関係機関から生活歴やその方の人となり等の聞き取りを行い、ご入居されてからも環境の変化、対応の変化に混乱することのないように心がけております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者様一人ひとりについては、日々の記録や申し送りを中心に、また定期的に行うフロア会議等を通じてスタッフ間での情報共有・現状把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月のミーティング時にスタッフ間でモニタリングを行い、ご本人の思いを汲み取った上で、ご家族や医療関係者とも意見交換をして、計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者様個々に24時間スケールで日々の記録を取っています。記録は職員間の情報共有や、介護計画の見直しに活かしています。また、記録を基にカンファレンスし、その都度、新たな対応につなげています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居者様への支援はケアプランに基づき実施していますが、個々のニーズに可能な限り沿うことができるよう、柔軟な支援やサービスの多機能化に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナウイルスの終息に伴い、地域の方と共に活動する時間を少しずつ持っています。（芋ほり等）		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居者様の体調不良時は、提携している訪問看護ステーションや主治医に指示を仰ぎ、対応しています。また、24時間体制で往診して頂けるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護師の定期来所時には、日々の中での気付きや状態を伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院の際、安心して治療を受け、できるだけ早期に退院できるように、日頃より主治医や訪問看護ステーションなどと積極的に情報共有しています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化・終末期と思われる入居者様には、早期にご本人やご家族の意向を確認し、担当主治医訪問看護師を交えて支援に取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時対応マニュアルを作成しており、これに基づき緊急時の対応を行うよう周知・徹底しています。また、見直しを行い、意識的に対応できるよう配慮しています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	火災・地震・水害等の災害を想定した法人内の避難訓練や、事業所内での訓練等を年に数回程度実施しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者様の性格や、これまでの生活環境、生活歴を考慮した上で、ケアプランを立て、人格やプライバシーを尊重した支援を行うよう努めています。言葉かけについては、ミーティングにて職員で考える時間を持ち、意識的に注意するようにしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	各入居者様が発する言葉や表情、動作等の様々な角度から、ご本人の思いや希望を汲み取り、尊重されるように努めています。また、極力、持っている力を発揮できるよう、意識的に関わりを持っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者様の年齢、体調、日々の様子や違いを職員間で話し合い、入居者様にとって一番合う支援、入居者様優先の支援ができるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	個々人の好みに応じて天候や季節感を大切にし、清潔な身だしなみができるように配慮し支援しています。美容院の利用、マニキュア等のおしゃれを楽しまれる方への支援も大切にしています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者様と食事を用意したり、食事を楽しめるよう、一人一人の好みや飲み込みの力など配慮し、食形態や盛り付け等も工夫しています。時には外でテーブルを並べランチタイムをしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人一人の健康状態を把握し食べられる量や食べやすい形態で提供し、無理なく摂取できるよう工夫しています。必要に応じ、水分摂取量チェックを行い、目標量の摂取ができるよう対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	起床時、昼食後、夕食後に口腔ケアを行っています。必要に応じ職員が介助し、義歯の洗浄も行っていきます。訪問歯科とも連携し、口腔環境を保てるよう支援しています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄表を参考に、それぞれの排泄サイクルに合わせて介助しています。自立度の高い方は声掛けや見守り、一部介助をしたり、夜間はポータブルトイレを使用するなどしてご自身の力で排泄を続けられるよう支援をしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分量の調節、飲食物の工夫など、ここに応じた予防に取り組み、なるべく下剤に頼らないよう取り組みをしています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	各入居者様の個々の状態に合わせて一般浴、シャワー浴などを実施し、一人一人が定期的に入浴できるように配慮しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人一人の体調やご希望に合わせて休憩をお取りいただいています。夜間は安眠できるよう、室温や照明などを調整しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋をファイリングし、服薬内容を職員間で共有しています。症状に変化があった場合は、主治医や訪問看護ステーションに連絡して指示を仰ぎ、また服薬時は誤薬や服薬忘れがないよう職員複数名で確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者一人一人が充実した毎日を送れるように食事の手伝い、洗濯物の整理、歌、散歩、ゲームなどをして生活が楽しめるように支援しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	新型コロナウイルス感染防止の観点から外食はしていませんが少しずつ施設前の駐車場でお昼ごはんを食べたり、ドライブや散歩など可能な限り対応させて頂いています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を所持しないことによって生じる不安や混乱にはその方に合った丁寧な対応を心がけています。時にご家族様のご協力ご理解を頂いた上でお財布をお持ち頂き実際にお買い物ができるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族様、ご本人様のご希望に添える様考慮しています。 季節ごとのイベントや時候の挨拶等はハガキを使ってご家族様へお気持ちが伝えられるよう支援しています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間（フロアー、リビング、トイレ、浴室等）に於いては常に安全性を考慮した物の配置を実施するとともに不快感を与える音、照明、色彩、室温が生じないよう配慮しています。また、季節を取り入れる工夫もしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間においてもテーブル・イス・ソファ等配置を工夫するなどして、お一人でも入居者様同士でも落ち着いて過ごしていただけるよう工夫をしています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室では、ご家族様にご協力をいただき、馴染みのある家具や写真等を飾ったりとご本人が居心地よく過ごせるような工夫をお願いしています。日々の居室内の掃除を徹底し、気持ちよく過ごしていただけるようにしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者様一人一人の力に合わせて「できること」「わかること」を活かせるようにバリアフリーを心がけ安全かつ自立した生活を送っていただけるよう工夫をしています。		

2023年度

事業所名 ラ・プラージュ湘南

作成日： 2024年 2月 27日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5.6	権利擁護や虐待防止について、みんなで振り返る機会が少なかった。	職員全員が、権利擁護や虐待防止の意識を持って支援にあたる。	定期的な研修。 3か月毎、虐待防止のセルフチェックを実施して、自分の支援を振り返る機会をつくる。	12ヶ月
2	3	運営推進会議の参加者が少ないため会議が活かされていない。	参加者を増やし、活力ある会議を目指す。	ご家族、入居者様にも開催通知を発送し参加を募る。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月